

昔壁の中よりもとめいてたりけん

②名をは―名は(群)
今の世の―いまの(静)

文の名をは今の世の人の子は夢はか

③ことゝは―ことゝ(伏)―事は(黒)

りも身のうへのことゝはしらさりけり

④岡―岳(慶)
葛原―くす葉(残・群・学・慶三)―かつらは
ら(伏)

な水くきの岡の葛原かへすゝもか

きをく跡たしかなれともかひなき物

⑥也―なりけり(群・松・九・万・竹・静・岡)
捨―すてゝ(慶)

はおやのいさめ也又賢王の人を捨給はぬ

⑦政にも―まつりことに(松)―にも(広甲)
もれ―れゝ(平)

政にももれ忠臣の世をおもふ情にも

⑧らるゝ―らる(慶)

すてらるゝものはかすならぬ身ひとつ

⑨なは―なから(残・群・鈴三)

なりけりと思ひしりなは又さてしも

⑩此―ナシ(伏)
うれへ―憂ひ(三・黒)
やるかたなく―たへやるかたなく(鈴)―や
るかたもなく(宮)

あらて猶此うれへこそやるかたなくかなし

①さらにーさらは(静)ーさらて(平)

けれさらにおもひつゝくれはやまと歌
のみちはたゝまことすくなくあたなる

③すさひーすさみ(群・九・林・古・池・内・扶・鷹
乙・広乙・三・天・平)

はかりーたり(鈴)

やーナシ(三)

④国にーナシ(松)

いは戸ー聲門の(鈴)
よりーナシ(残・群・三)

すさひはかりと思ふ人もあらん日のもと
の国にあまのいは戸ひらけし時より四方

⑤たちのーたち(松)

かくらのーかくら(学・慶・愚
詞をーことは(松)

おさめーおめめ(松)

の神たちのかくらの詞をはしめて世をおさ

⑥けるーけり(九・学・慶・愚)

めものをやはらくるなかたちと成にけると

⑧たるーたり(群・万・竹・古・静・池・内・鷹乙
岡・天・平)ーたりける(幽・残・松・九・学・
慶・鈴・扶・鷹甲・広乙・三・愚)

又ーなを(鈴)

おほかれー猶おほかれ(鈴)

⑨とーとも(幽・松・九・学・慶・鈴・扶・宮・鷹甲・
広乙・黒・平)

二たひーたひく(黒)

きこえー名を(鈴)

⑩家ーナシ(残・三)

猶ーナシ(伏)

こえあけたる家はたくひ猶ありかたくや有

①跡―夜(鷹甲)

たつさはりて―たつさにて(松)

②おのこゝ共―をのことも(幽・学・慶・鷹甲・

黒)―をのこゝと(伏)―おの子どもの

(鈴)

もゝち―もゝちゝ(平)

歌―夢(鷹甲)

ふるほく―ふるほこ(幽・鈴・宮・鷹甲)―ふ

るほんこ(平)

④事―こそ(鷹乙)―ことも(三)

子を―子(伏)―なを(松)

はくゝめ―はくゝめ(慶・黒)

⑥ゆへなく―ナシ(広甲)

せきとゝめ―せきとめ(残・静・鈴・三)―せ

をとゝめ(竹)

⑦法の―ナシ(鈴)

まほり―まもり(幽・残・群・松・九・方・学・竹

・古・静・池・内・鈴・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・三

・黒・岡・天・平)

⑧子―ナシ(黒)

命―いのり(松)

⑨きえ―きみ(古)

⑩あやうく―あやふく(残・群)

心ほそき―心ほそ(鈴)

なから―物から(残・三・黒)

何として―なとして(松)―ナシ(鈴)

けむ其跡にしもたつさはりてみたり

のおのこゝ共もゝちの歌のふるほくともを

いかなるえにかありけんあつかりもたる

事あれと道をたすけよ子をはくゝめ

後の世をとへとてふかき契をむすひを

かれしほそ川のなかれもゆへなくせきとゝ

められしかは跡とふ法の灯も道をまほ

り家をたすけむおや子の命ももろ

ともにきえをあらそふ年月をへて

あやうく心ほそきなから何としてつ

- ① けふ—今(鈴)
 まて—までは(残・群・鈴三)
 なからふ—なからふる(万・竹・古・池・内・鈴
 ・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・岡・天)—なからふ
 待(静)
- ② は—を(鈴)
 捨れ—すくれ(静)
- ③ 心の—ナシ(鷹乙)
 忍ひ—しのひて(平)
 恨—かきり(静)
- ④ なく—なくて(幽・松・九・学・慶・鈴・宮・鷹
 甲)
- ⑤ ても—ナシ(黒)
 猶—ナシ(伏・黒)
 ⑥ うつさは—うつさむは(群・万・竹・岡)—う
 つせは(松・九)
- ⑦ ようなき—えうなき(残・鈴三)
 なしはて—なし果て(学)—思ひなして
 (鈴)
- ⑧ ゆくりもなく—ゆくりなく(幽・学)—ゆつ
 りもなく(古)
 さそはれ—さそはれて(竹・静・宮)
- ⑨ とそ—と(鈴・黒)
 さりとて—さりとては(静)—さるとて(鈴)
- ⑩ さそふ—さそふ水(群)
 あらすむ—あらすむ(松)

れなくけふまてなからふらんおしからぬ
 身ひとつはやすく思捨れとも子をおもふ
 心のやみは猶忍ひかたく道をかへりみる恨
 はやらん方なくさても猶あつまの亀の
 鏡にうつさはくもらぬ影もやあらはるゝとせ
 めておもひあまりてよろつのはゝかりをわ
 すれ身をようなきものになしはてゝ
 ゆくりもなくいさよふ月にさそはれ
 出なんとそ思ひなりぬるさりとて文
 屋のやすひてかさそふにもあらすむ

①にも―ナシ(池)
三冬―みふゆ(残)
②たつ―たち(黒)
空―さたまなきそら(残・群・万・竹・三岡)
ふりみふらすみ―ふりふらすみ(九)

③涙と―涙(松)

⑤かなしけれと―ものかなしけれと(鈴)

⑥とても―とて(松・九)
へきにも―へきに(伏)

⑦あらて―あらず(黒)
たち―せ(黒)
わかれせ―めかれ(静)―めかりせ(鈴)

⑧さりつる―きりつる(慶)
程―ナシ(三)
たに―たにも(鈴)
つる―たる(鈴)

⑨見まはされ―みわたされ(平)
も―の(松)

⑩袖の―袖(鷹)

へき国もとむるにもあらず比は三冬

たつはしめの空なれはふりみふらすみ

時雨もたえす嵐にきはふ木葉さへ涙

とともにみたれちりつゝ事にふれて

心ほそくかなしけれと人やりならぬみち

なれはいきうしとてもとゝまるへきにも

あらて何となくいそきたちぬめかれせ

さりつる程たにあれまさりつる庭も

まかきもましてと見まはされてした

はしけなる人々の袖のしつくもなくさ

①侍従―しうの(松・方・竹・古・内・扶・広乙・岡・平)

②うちくつし―うちくむし(九)―うちつくし
(万・竹・古・静・伏・内・鷹乙・岡)
いと―ナシ(林)―と(平)
心―ナシ(静)

注 2行目「つ」一字見を消す
③うち見れば―うちをみれば(幽・残・群・学・慶・鈴・宮・鷹甲・三・黒・平)―うちをみや
れば(松・九)

④枕の―枕さへ(残・群・万・竹・三・岡)―まく
し(池)
をみるも―をみるにも(残・群・学・三)―も
(宮)―をみるに(鷹乙)

⑤かなしくて―かなしとて(平)

⑦われ―我(残)―わか(鈴・宮・三)―我(幽・群・松・九・万・学・竹・古・静・池・内・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・岡・天・平)

はらはむ―かはらん(三)

⑧ける―たる(静・宮・平)
歌の―歌(宮)

⑨なとして―して(残)―なととて(群)
あたらぬ―あたる(鈴)―あたなりぬ
(鷹甲)

⑩したゝめて―したゝめ(鈴)
かき―ナシ(黒)

めかねたる中にも侍従大夫などのあな

かちにうちくつしたるさまいと心くるしけ

れはさまゝいひこしらへねやのうち見

れは昔の枕のさなからかはらぬをみるもい

ま更かなしくてかたはらにかきつく

とゝめをくふるき枕のちりをたに

われ立さらはたれかはらはむ

代々にかきをかれける歌のさうしもの

おくかきなとしてあたらぬかきりをえ

りしたゝめて侍従のかたへをくるとてかき

そへたる歌

わかの浦にかきとゝめたるもしほ草

これをむかしのかたみとは見よ

あなかしこよこ浪かくなはま千鳥

ひとかたならぬ跡をおもはゝ

是を見て侍従のかへりこといとくあり

つるによもあたにはならしもしほ草

かたみをみよの跡に残さは

まよはましをしへさりせははま千鳥

ひとかたならぬあとをそれとも

③かたみ―記念(三)
とは―とも(残・群・万・竹・鈴・扶・宮・広乙・
三・岡)

④かくな―かくる(広甲・万・古・扶・広乙・岡・
天・平)

⑤かへりこと―返し(松)
とく―かく(林)―しく(黒)

⑦あたにはならし―あたにもなさし(平)

⑧を―に(伏)
に残さは―にのこせは(残・群・万・竹・伏・三・
黒・岡)―にのこさむ(林)―のこさはや
(宮)

⑨まし―しな(黒)
をしへ―をしみ(黒)

⑩それ―たれ(平)

① 心やすくー心やすう(静)

此かへり事いとおとなしければ心やすく哀

② たくてーたく(静)ーたくへて(鈴)

なるにも昔の人にきかせ奉りたくて又

③ しほれぬーしほたれぬ(残・九三)ーしほれ
(松)ーしくれぬ(伏)ーふしぬ(鈴)

打しほれぬ大夫のかたはらさらずなれき

④ ふりーナシ(松)

られーられて(平)

あなかにーかちに(広甲・林・方・竹・古・池
・伏・内・麿乙・岡・天)

つるをふり捨られなんなこりあなかに思ひ

⑤ てーナシ(松)

しりて手習したるを見れば

⑥ したはれーしたふれ(林)

はるくーと行きき遠くしたはれて

いかにそなたの空をなかめん

⑧ にてーに(鈴)

とかきつけたるものよりことに哀にて

⑨ かみー方(広甲)
つーて(静)

おなしかみにかきそへつ

⑩ なななめそーななめそ(松)

つくくーと空ななめそ恋しくは

②なくさむる―なく(松)
あにの―ナシ(宮)―あにの(岡)

③律師も―おりしも(九)―律師(静)

④それも―けれども(松)
物―ナシ(残・群・広甲・林・万・竹・古・伏・扶・
鷹乙・広乙・三・黒・岡・平)
と―とて(鷹甲)

⑤とも―ナシ(伏)
を見て…かき付ておくに(六オ④)―ナシ
(広甲・林・古・内・鷹乙)
又―ナシ(静)
たり―つ(鈴・黒)
⑥たゝゝのみ(残・群・扶・広乙・三)―なく(万・
竹・静・岡)

⑦立―ナシ(宮)

⑧とは―ナシ(鈴)
こといみし―いみし(伏)―いといみし(鈴)
涙の―ナシ(伏)

⑨まきらはすも―まきらすも(宮)―まきらは
す(松)

⑩の君―のみ(万・竹・岡)
にて―にて(静)

みちとをく共はやかへりこん

とそなくさむる山より侍従のあにの

律師もいてたち見むとておはしたり

それもと物心ほそしとおもひたるを此手習

ともを見て又かきそへたり

あたにたゝなみたはかけし旅衣

こゝろのゆきて立かへるほと

とはこといみしなから涙のこほるゝをあ

らゝかにものいひまきらはすもさまゝ

あはれなるをあさりの君は山ふしにて

- ①この人々―人々(伏)―此人群・万・竹・扶・
 広乙・岡) は―ナシ(鈴)
 なり―なる(松・九)
 たひの―たひ(伏)
 ②みちの―道(三・平)
 をくらん―おくり奉らん(残・群・万・竹・静・
 扶・広乙・三・岡)
 とて―と(伏)
 いてたゝるめるを―いてたるめるを(九・
 慶)―出たるを(静)―おはしぬるも(鈴)
 ―いてたゝるめる(宮)
 ③又―ナシ(松・九・慶・鈴)
 ましはらさらむ―ましらはさらむ(残・群・
 万・竹・静・扶・広乙・三・岡)
 ④そ―に(池)―も(扶・広乙・黒・平)
 ける―けり(黒・平)
 ⑤まもり―こもる(万・竹・岡)―まほり(黒)
 ⑥女子―女子(女・鈴)―むすめ(こ・群)
 あまたも―あるも(鈴)
 ⑦この―この頃(群・万・竹・静・扶・広乙・岡)
 程の―はと(平)
 ⑧姫宮―ひめきみ(平)
 一とこる―二所にて(鈴)
 むまれ給ひしはかり―うまれたまふはかり
 (残・三)―うまれ給ひ許り(群)―むまれ
 給へりしはかり(松・九)―むまれ給ひし
 事(静)―むまれ給計(扶・広乙)―むまれ
 給事(万・竹・岡)

この人々よりはあになりこのたひの
 みちのしるへにをくらんとていてたゝる
 めるをこの手ならひに又ましはらさら
 むやはとてかきつく
 たちそふそうれしかりける旅衣
 かたみにたのむおやのまもりは
 女子はあまたもなしたゝひとりにて
 このちかき程の女院にさふらひ給ふ
 院の姫宮一とこるむまれ給ひしはか
 りにてこゝろつかひもまことしきさま

- ①に―にて(残・群・扶・広乙・三)
おとなしく―おとなしく(松九)
御方の―御かた(松)
御恋しさ―恋しさ(残・群・万・学・竹・伏・扶・
広乙・三・岡)
②をく―おき(黒)
侍従大夫―しうのたゆふ(松)―侍従の大
夫(宮・平)
③の事―の(伏)―こと(宮)
はくゝみ―はくゝみて(池)―はくゝみ(伏・
黒)
おほす―おほす(群・万・竹・慶・扶・広乙・岡)
―おかす(鷹甲)
④も―ナシ(万・竹・鈴・黒・岡)
こまかに―ナシ(池・尊・天)―まかきに(伏)
付て―つゝけて(松・九)
⑤こそ―のみ(平)
たのめ―たのむ(学・鈴)
に―の(静)

におとなしくおはすれは宮の御方の御恋
しさもかねて申をくついでに侍従大
夫なとの事はくゝみおほすへきよし
もこまかにかき付ておくに
君をこそあさ日とたのめふる里に
のこるなてしこ霜にからすな
と聞えたれは御かへりもこまやかに
いとあはれにかきて歌の返事には
おもひをくゝろとゝめはふるさとの
霜にもかれしやまとなてしこ

- ① いつゝ三つ(扶・広乙)―五人(三)―いつ
く(黒)―いつく(平)
のこりなく―のこるなく(松・九)
② つゝけぬるも―付ぬる(鈴)―つゝける
(黒)
かつは―心には―ナシ(鈴)
いと―ナシ(幽・万・竹・静・慶・伏・宮・鷹甲・
黒岡)
おこかましけれと―おこかましく侍れと
(静)
③ には―にて(松)―に(慶)
哀に―あはれと(幽)
④ かき―ナシ(松)
たり―たる(学)
よはくても―よわくては(残・三)―よはく
て(黒)―にはくても(鈴)
⑤ とて―と(伏)
すてつ―すつ(黒)
⑥ より―よりそ(松・九)―よりも(万・学・竹・
古・静・池・内・扶・鷹乙・広乙・岡天)
つ―つる(松・九)
⑦ あふ坂―相坂山(鈴)
も―に(残・群・静・扶・広乙・三・平)―にも
(幽・万・学・竹・伏・宮・鷹甲・岡)
⑧ さたまなき―さなきたに(平)
なれと―なれば(万・竹・岡)

とそあるいつゝの子ともの歌のこりな
くかきつゝけぬるもかつはいとおこかま
しけれとおやの心には哀におほゆるまゝ
にかきあつめたりさのみ心よはくても
いかゝとてつれなくふりすてつあはた
くちといふ所より車はかへしつ程なく
あふ坂のせきこゆるほとも
さたまなき命はしらぬ旅なれと
又あふさかとたのめてそゆく
のちといふ所はこしかた行きき人も

①日はナシ(竹)
かゝりてーかゝるて(静)ーかゝり(鈴・鷹
乙)
物かなしーおかなし(古)ーはかなし(静)ー
おほつかなし(鈴)
②そゝくーそゝき(黒)

④野路のしの原ー後のさゝ原(松)ーのちしの
原(林)

⑤つくーとゝまる(鈴)
へしーへき(学)

⑥つれとーつれとも(静)
はてゝーはて(伏)
行つかすーえ行つかす(松・九)
もり山ーもり山(松・九)
⑦とゝまりぬーとゝまる(鈴)
にもーに(鷹甲)
時雨猶ー猶時雨そ(学・静)

⑧けりーける(学・静)

⑨猶ー我か(松)ー我(九)

⑩もる山ーもり山(静・池・慶・内・宮・鷹乙・愚
しもーして(万・竹・鈴・宮・黒・岡・平)

みえず日は暮かゝりていと物かなしとお

もふにしくれさへうちそゝく

打しくれふるさとおもふ袖ぬれて

行ききとをき野路のしの原

こよひはかゝみといふ所につくへしときた

めつれと暮はてゝ行つかすもり山といふ

所にとゝまりぬ爰にも時雨猶したひき

にけり

いとゝ猶袖ぬらせとややとりけん

まなくしくれのもる山にしも

- ①は―ナシ(伏・鈴)
なりけり―成けりと(広甲)―也(幽・鷹甲)
くるしく―心くるしく(鈴)
- ②うち―ナシ(残・群・方・竹・三・岡)
光―ひかりは(殊・三)
かすかに―ナシ(慶)
- ③明ほのに―明更(広甲)―に(黒)
もり山―もる山(松・九)
- ④程―程に(幽・学・慶・鈴・扶・宮・鷹甲・広乙・黒・平)
やす川―やすの河(幽・静・伏・宮・鷹甲・平)
- さき―さきに(平)
行―ナシ(宮)
旅人の―人の(松・九・尊)―旅人の人の(伏)
たひの(宮)
あし音―あしのをと(林・松・九・方・竹・古・池・内・扶・鷹乙・広乙・岡・天)
- ⑤にて―に(鈴)
ふかし―ふし(内)
⑥旅人も―たひ人は(幽・残・群・学・慶・鈴・扶・鷹甲・広乙・三・黒)
先―朝(幽・残・群・方・学・竹・静・慶・扶・宮・鷹甲・広乙・三・岡)
- ⑦やすの川きり―やす川のきり(松・九・鷹乙)
- ⑧十七日の―十六日の(松)―十六日(九)
- ⑨月出て―ナシ(鈴)
峯に―はに(鈴)
たる―ナシ(平)
松の―ナシ(三)
- ⑩みえ―見せ
おもしろし―おもしろ(松)
に―は(残・群・三)―も(松・九・静)―を(学)

けふは十六日の夜なりけりいとくるしくて

うちふしぬいまた月の光かすかに残りた

る明ほのにもり山をいて、ゆくやす川わた

る程さきたちて行旅人のこまのあし音

はかりさやかにて霧いとふかし

旅人もみなもろともに先たちて

駒うちわたすやすの川きり

十七日の夜はをのゝ宿といふ所にとゝまる

月出て山の峯に立つゝきたる松の木の間

けちめみえていとおもしろしこゝに夜ふか

①井―ひ(古・池・黒)

き霧のまよひにたとりいてつさめか井と

②ならは―なから(三)

おもふ―見る(松・九)

いふ水夏ならは打過ましやとおもふに

③猶―かち人なを(慶)

立―うち(鈴)

めり―なり(池・慶)―なる(静)―ナシ(宮)

かち人は猶立よりてくむめり

―あり(鷹乙)

むすふ手にゝこる心をすゝきなは

⑤や―は(字)―を(静・伏)

井―ひ(古・黒)―い(池)

うき世の夢やさめか井の水

⑥とそおほゆる―ナシ(三)

十八日―ナシ(残・広甲)

国―国に(万・竹・古・岡)

とそおほゆる十八日みのゝ国せきの藤河

⑦まつ―ナシ(黒)

つゝけゝる―つゝけらる(九)

わたる程にまつおもひつゝけゝる

⑧て―は(松・九・伏)

わかことも君につかへんためならて

わたらましやはせきのふち河

不破のせき屋の板ひさは今もかはらさりけり

① 関屋は―関やの(伏・平)

ひまおほきふはの関屋はこの程の

③ 雨―雨の(宮)

しくれも月もいかにもるらん

しくれ―銀竹(竹)

関よりかきくらしつる雨しくれに過て

④ も―ナシ(鈴)

降くらはせは道もいとあしくて心より外に

⑤ かさぬひ―かさぬいひ(古)

かさぬひのむまやといふ所にとゝまる

むまや―ひまや(伏)

所に―所にくれはてねと(残・群・三)

⑥ 旅人は―旅人の(黒)

旅人はみのうちはらふゆふくれの

はらふ―はらひ(幽・松・九・鷹甲)

ゆふくれの―ゆくくれの(幽・鷹甲)―ゆう
くれに(鈴)

雨にやとかるかさぬひのさと

⑧ 十九日―十九日に(学)

⑨ つる―ける(残・三)

とかや―とかやと(松・九―とかやと(黒))

程―はとに(幽)―程の(扶・広乙)―ナシ
(竹)いと―いと(幽・残・群・静・池・鈴・鷹甲・三
・愚)

⑩ わろくて―わろくて(池)―わろく(平)

人―人の(鈴)

へくも―へきに(黒)

ね―ぬ(古)

わろくて人かよふへくもあらねは水田の

①おもー面(残)ー面(幽・九・広甲・学・静・池・慶・鈴・鷹甲)

そーナシ(黒)

わたりーナシ(静)

あくるーナシ(平)

②道ーところ(鈴)

③目にーナシ(内)

社ー森(伏)

神とそー神と(残)ー袖とそ(静・伏)

④きこゆるといへはーゆうめる(鈴)ーきこゆる(黒)

⑤まほれーまほれ(幽・残・群・松・九・広甲・万・学・竹・古・静・池・慶・内・鈴・扶・宮・鷹甲・鷹乙・広乙・三・岡)

⑦とかやーと(学・伏・鈴)

いふーナシ(黒)

川ー月(平)

はーナシ(鈴・平)

⑧かけとゝめーかけとめ(鈴)ーかきとゝめ(黒)

⑨あやうけれとーあやうけれと(残・群・三)ーあやうけれは(行)ーあやうけれとも(鈴)

⑩堤ー塘(学)

かたはーかた(広甲)

かたくはーかたかた(広甲)

おもをそさなからわたりゆくあくるまゝに

雨はふらすなりぬひるつかた過行道に

目にたつ社あり人にとへはむすふの神と

そきこゆるといへは

まほれたゝ契むすふの神ならは

とけぬうらみにわれまよはさて

すのまたとかやいふ川には舟をならへて

まさきのつなにやあらんかけとゝめた

るうき橋ありいとあやうけれとわたる

此川堤のかたはいとふかくてかたくは浅けれは

① つかきーふるき(岡)

かたふちのつかき心はありながら

九ウ

② にーの(松・九・静)

人目つゝみにさせかるらん

かりの世のゆきゝとみるもはかなしや

④ 身をー身の(幽・松・九・静・慶・鷹甲)
ふねをー船の(竹
にーと(静)

身をうきふねをうき橋にして

⑤ そーも(九)
又ーナシ(宮)

とそおもひつゝけゝる又一宮といふやし

ろをすくとて

⑦ みやー宮や(鷹甲)
ふたつーみたつ(広甲)

一のみや名さへなつかしふたつなく

みつなき法をまもるなるへし

⑨ の国ーナシ(宮)

廿日おはりの国おもとゝいふむまやをゆく

おもとゝいふーおりとといふ(残・群・三)
おりとの(松・九)
ゆくー出て行(松・九・静)ーゆき(宮)
⑩ へー人(松)
てーナシ(伏・鈴)

よきぬ道なれはあつたの宮へまいりて

①硯―硯を(学)
いて、いて(伏)

かきつけて―かきつけ(松・九・鈴・黒)―書

(広甲)―かきつゝけて(宮)

奉る―奉りける(学・静・宮)

五―ナシ(残・群・学・宮・三・平)―いて、

③かたひくしほも神のまに―

も―を(伏)―の(鈴)

④浦風―浦かを(松)―浦浪(学・伏)

⑤も―や(学)

⑥きつる―いのる(幽・鷹甲)

⑦や―の(幽・鷹甲)

みるめ―うるめ(伏)

⑧しほひ―鳴海の渦を過るにしほひ(残・群・

三)―ちきりあれやむかしもゆめにみし

めなは心にかけてめぐりあひめるしほ

ひ(松・九・静)

を―ナシ(黒)

硯とりいてゝかきつけて奉る歌五

いのるそわかおもふことなるみかた

かたひくしほも神のまに―

なるみかたわかの浦風へたてすは

おなしこゝろに神もうくらむ

みつしほのさしてそきつるなるみかた

神やあはれとみるめたつねて

雨風も神のこゝろにまかすらん

わか行さきのさはりあらすな

しほひの程なれはさはりなくひかたを

①いとーナシ(松・丸)
さきたちてー先立(鈴)

②かほーナシ(竹)

④跡とめむーあととめし(松・丸)ーあとゝは
ん(静)
をーか(鈴)

⑤のわたりーナシ(黒)

⑥かとーナシ(慶)
あしとーあしとの(鈴)

⑦ありーをり(黒)

⑧あかさりしーあかゝりし(宮)

⑨すむーこし(松・丸)
かとーかも(群・竹・慶・伏・宮)ーとは(静)

⑩にーナシ(松・丸)ーにも(静)
山も野もー野も山も(鈴)

行おりしも浜千鳥いとおほくさきた

ちてゆくもしるへかほなる心ちして

はま千鳥なきてそさそふ世中に

跡とめむとはおもはさりしを

すみた河のわたりにこそありときゝし

かとみやこ鳥といふ鳥のはしとあしと

あかきはこの浦にもありけり

ことゝはむはしとあしとはあかさりし

我すむかたのみやこ鳥かと

二むら山をこえて行に山も野もいとゝ

① 日もーナシ(平)

をくて日もくれはてぬ

1

はるくくと二むら山を行すきて

2

なをすゑたとる野へのゆふやみ

3

八橋にとまらんといふくらきにはしも

4

みえすなりぬ

5

④ とまらんとーとまらむ人々ー(松・九)
ーとまらむと(学)
くらきーくらき(幽・群・松・九・広甲・林・万・
学・竹・古・静・池・慶・内・鈴・扶・宮・鷹・方・
鷹・乙・広・乙・黒・岡・天・平)

⑤ なりぬーナシ(静)

さゝかにのくもてあやうき八はしを

6

⑥ あやうきー危き(残・三)ーあやしき(鈴)
をーも(平)

ゆふくれかけてわたりぬる哉

7

⑦ ぬる哉ーかねつる(松・九)

廿一日八はしをいてくゆくにいとよくはれた

8

⑧ 廿一日ー廿日(松)ー廿二日(広甲)
にー日(松・九)
たりーたる(平)

り山もと遠きはら野を分ゆくひるつ

9

⑨ 山もとー山(残・広甲・三)ー山も(竹)
はら野をー野原を(学)ーはら野(伏)

かたになりて紅葉いとおほき山にむかひ

10

- ①つれなき―つれなきくれなる(松・九)―つ
きなき(静)―つれな(宮)
ところところ―所々に(池)
くち葉に―もみち葉に(静)―くち葉(宮)―
松はに(黒)
②けり―ける(松・九)―なり(岡)
とも―とも(鈴)―ともし(鷹乙)―とも(平)
③あをち―あふち(竹)―青葉(鷹甲)
を―と(松)
す―して(松・九)
④みやちの山―みやち山(残・群・万・竹・黒・
岡)―みやちといふ山也(学・慶)
といふ―とそいふ(松・九)
⑤けり―せり(広甲)
の―に(広甲)
⑥かへるまで―かはるまで(幽・群・扶・鷹甲・
広乙)―かへるとて(静)
⑦まで―にて(鈴)
に―ナン(九)
ね―ぬ(群)
⑩竹の―竹(松・九)
かや屋の―かやゝたゝ(松・九)―や屋の
(林)
見ゆる―見ゆるは(黒)

て行風につれなきところくち葉に
そめかへてけりときは木ともゝたちま
しりてあをちの錦をみる心ちす人に
とへはみやちの山といふ
しくれけりそむる千しほのはては又
もみちのにしきいろかへるまで
此山までは昔見し心ちするに比さへかはらねは
まちけりなむかしもこえし宮ち山
おなし時雨のめぐりあふ世を
山のすそ野に竹のある所にかや屋の一見

①かくてーかく(黒)
すむらんーすみぬらん(鈴)

②みゆーナシ(伏)

③しめーとめ(静)

④あたりーあたに(松)

⑤ものゝーナシ(黒)
あやめわかぬほとにーあやめわかるゝほ
と(松・九)ーあやめもわけぬほとに(竹)

⑥わたうとゝかやーわたとゝかや(学・慶)ー
わたうとかや(万・竹・静・鈴・黒・岡)
とゝまりぬーとゝまる(鈴)

⑦廿二日のー廿二日(鈴)
曉ー曉は(学・静・慶)ーナシ(鈴)
ふかきーふかく(残・学・静・池・慶三・黒)
影にーかはかり(静)

⑧ゆくーナシ(慶)
もーナシ(慶)
物かなしーつゝかなし(群)ー物いとかなし
(松・九)

⑨をーは(松・九)

⑩うき身ー浮世(松・学)
かけー月(鈴)

ゆるいかにしてなにのたよりにかくてすむ

らんとみゆ

ぬしやたれ山のすそ野に宿しめて

あたりさひしき竹のひとつら

日は入はてゝ猶ものゝあやめもわかぬほとに

わたうとゝかやいふ所にとゝまりぬ

廿二日の曉夜ふかきあり明の影にいてゝ

ゆくいつよりも物かなし

すみわひて月のみやこをいてしかと

うき身はなれぬ有明のかけ

①なる―する(三)
さへ―ナシ(伏)

②たり―たる(松・鈴)

③の―は(黒)
出つ―出ぬ(広甲・平)

④月―かけ(竹)

⑤の―ナシ(群)
こえ―こし(平)
つ―ゆく(宮)

⑥浦―ナシ(広甲)
浪―ナシ(伏)
いと―ナシ(林)

⑦たかし―あらし(松・九)

⑧ため―かた(鈴)
浪―風(松・九・静)―なれ(字)―音(鈴)

⑨は―た(黒)

と思ひつゝくるともなる人有明の月さへ

かさきたりといふをきゝて

旅人のおなしみちにや出つらむ

かさうちきたる有明の月

たかしの山もこえつ海見ゆる程いとおもし

ろし浦風あれて松のひゝきすこく浪い

とたかし

我ためや浪もたかしのはまならん

そてのみなとの浪はやすまて

いとしろき洲さきにくろき鳥のむれ

①は―ナシ(平)
なりけり―なりけん(広甲)―ナシ(静)―な
り(平)

②つ―洲(鈴)

③の―も(残・群・松・九・万・字・竹・古・静・池・
慶内・鈴・鷹乙・三・岡天)

⑤鳥―鳥の(鈴)

おほく―はほく(松)
かひ―ちかひ(幽・残・群・松・九・広甲・林・万
・字・竹・古・静・池・慶内・鈴・扶・鷹甲・鷹
乙・広乙・三・黒・岡・天・平)
へも―にも(黒)
いる―いり(幽・鷹甲)―入(静・慶・鈴・鷹乙
―ある(黒))
⑥る―い(松・池)

⑦ある―いる(松)

⑧の―に(平)

かけこす―影こす(群)―かすこそ(松・九
―かたこす(黒))

⑨ひきま―ひくま(残・群・万・竹・扶・広乙・岡
―引間(幽・松・鈴・鷹甲)―ひき(林)―引
馬(三))

とゝまる―とゝまり(静)

⑩所の―所(鈴・平)

大方―館(広甲・慶)―たち(字)
名は―なを(残・扶・広乙・三)

るたるは鵜といふ鳥なりけり

白はまにすみの色なる嶋つ鳥

ふてのをよはゝ絵にかきてまし

はまなのはしより見たせはかもめといふ

鳥いとおほく飛かひて水のそこへもいる

岩のうへにもゐたり

かもめゐる洲崎の岩もよそならす

波のかけこす袖に見なれて

こよひはひきまのしゆくといふ所にとゝまる

此所の大方の名ははま松とそいひししたし

①なりなりと(内・鷹乙)

といひしはかりの人々なともすむ所なりす

1

②おもかけも―面影(鷹乙)
さまく―さまく(に(宮))

みこし人のおもかけもさまく―おもひ出ら

2

③程も返々哀なり―ナシ(広甲)―程返々あは
れなり(平)

れて又めぐりあひて見つる命の程も返々

3

哀なり

4

⑤を―も(字・慶)
たつねきて―たのみつゝ(鈴)

はま松のかはらぬかけをたつねきて

5

⑥とふ―思ふ(静・伏・鈴・平)

みし人なみにむかしをそとふ

6

⑦子―ナシ(鈴・黒)
むまこ―まこ(松・九)―むまれ(伏)
いて―出し(静)

其世に見し人の子むまこなとよひいてゝ

7
(274)

⑧あひしらふ―あひしらぬ(九)
天りう―てんちう(九)

あひしらふ廿三日天りうのわたりといふ舟

8

⑨いてられて―いてゝ(慶)
いと―ナシ(松・九)
心ほそし―心ほそく(平)

にのるに西行か昔もおもひいてられていと心

9

ほそしくみあはせたる舟たゝ一にてお

10

①人の一人々(平・思)
 帰る―かへるほと(松)
 も―ナシ(鈴)

②に―を(松・九・鈴)
 みよ―見る(鈴)

③はやせ―はやを(古)
 を舟―瀬々に(松・九)―ふねの(平)
 やすめす―やすめて(平)

④とをつあふみ―とをたうみ(松)―とをつあ
 ふみの(幽・宮・鷹甲)
 さと―こふ(残・群・三)―こう(松・九)

⑤とゝまる―とまる(伏)
 物―ナシ(宮)

⑥井―え(松・九)

⑦旅ねそ―旅寝の(残・三)
 そら―空に(竹)

⑧ひる―昼つかた(鈴)
 こゆ―こゆる(群)―ナシ(伏)

とのまくとかや―ことのまくとかや(残・群・扶・広乙・三)―とのまくと松・九・鷹乙
 ―とのまくと(鷹甲)―にとのまくとかや
 (静)

⑨ほとも道いと―ほともみちいとさかりに
 (残・群・三)―ほともみちいと(松・九・鷹)
 一程もみちいと(幽・鷹甲)―ほともみち
 (竹)―をとも道いと(伏)―程紅葉いと
 (尊)
 おもしろし―おもしろく(静)

はくの人ゆきゝにさし帰るひまもなし

水のあはのうき世にわたる程をみよ

はやせのを舟さほもやすめす

こよひはとをつあふみ見つけのさとゝいふ

所にとゝまる里あれて物おそろしかたは

らに水の井あり

たれかきてみつけの里ときくからに

いとゝ旅ねそそらおそろしき

廿四日ひるに成てさやの中山こゆとのまくと

かやいふやしろのほとも道いとおもしろし

- ①をよはぬ―おもはぬ(竹)―をとほぬ(伏)
なめり―るめり(鈴)
②近―ナシ(平)
こと山―ことに(黒)
心ほそく―心ほそし(広甲)
③麓の里…と…まる―ナシ(伏)
里に―里(幽・松・九・鷹甲)
きく川―菊路川(鈴)
と…まる―とまる(静・宮)―と…まりぬ
(三)

⑤さよ―さや(残・群・広甲・学・鈴・三)

⑥あかつき―あかつきに(群)
おきて―出て(鈴)―おき出て(黒)
も―ナシ(伏)

⑦さや―さよ(伏・平)
は―も(鈴)

⑩かけし―かりし(林)

山陰にて嵐もをよはぬなめりふかく入まゝ

に遠近のみねつゝきこと山に似す心ほそく

哀也麓の里にきく川といふ所にと…まる

こえ暮すふもとのさとのゆふやみに

松風をくるさよの中山

あかつきおきてみれば月も出にけり

雲かゝるさやの中山こえぬとは

みやこにつけよ有明の月

河音いとすこし

わたらむとおもひやかけしあつまちに

ありとはかりはきく川の水

廿五日きく川をいてゝけふは大井川といふ

河をわたる水いとあせてきゝしにはた

^か

かひてわつらひなしかはらいくりとかや

^は ^り

いとはるか也水のいてたらんおもかけをし

はからる

おもひ出るみやこのことはおほ井川

いくせの石のかすもをよはし

うつの山こゆる程にしもあさりの見しり

たる山ふし行あひたり夢にも人をなと

②はーナシ(鈴)

③いとーナシ(尊)

はーナシ(鈴)

たかひーかはり(伏・宮)

注 3行目「かはり」三字見せ消チ

④かはらーかはらは(静)ーかはゝ(松)

⑤いとーナシ(竹・平)

か也ーかに(池)ーナシ(黒)

いてたらんゝはからるーナシ(広甲)

いてたらんー出らん(黒)

⑥らるーらるゝ(静)

⑨にしもーナシ(平)
見しりー見し(竹)

⑩山ふしー山ふしに(幽・廣甲)
たりーたる(内)

①昔をわさと―わさと昔を(鈴)
まねひたらん―まねひたらん(静・黒)―真

似ひたる(鈴)

②哀にも―あはれも(伏)

やさしく―やさしく(広甲)
おほゆ―おほゆる(字・黒)

③あまは―あまた(広甲・鈴・平)

④やむことなき―やすむことなき(平)
所―と心(万・竹・岡)

ひとつにそ―ひとつそ(広甲)―ひとりにそ
(内・平)―ひとつにて(黒)

⑤きこゆる―聞ゆ(幽・広甲・静・鈴・宮)

⑥なし―なき(広甲)

⑦夢にも―ゆめちも(松・九・静)
都―むかし(残・群・万・古・扶・広乙・三・岡)
こふ―たふ(古)

⑧ひまも―ほとも(広甲)―ひまは(慶)

⑨に―そ(平)

昔をわさとまねひたらん心ちしていと

めつらかにおかしくも哀にもやさしくもお

ほゆいそく道なりといへは文もあまはえ

かゝすたゝやむことなき所ひとつにそ

をとつれきこゆる

我こゝろうつゝ共なしうつのがま

夢にもとをき都こふとて

つたかえてしくれぬひまもうつの山

なみたに袖の色そこかるゝ

こよひはてこしといふ所にとゝまるなに

- ①とかやのーとかや(広甲・静・鈴・三・黒・平)
 ーかやの(伏)
 のほろーのほりたまふ(残・三・黒)のほり
 (松・九・万・竹・古・内・鷹乙・岡)ーのほり
 (鈴)
 ②宿かりかねたりつれーやとりかねたりつれ
 (松・九)ーやとかりかねつれ(池・鈴・宮・尊・
 三・天・平)
 ーとも(慶)
 ③もーナシ(静)
 わらしなーはらしな(幽・松・静・鈴・鷹甲・
 黒)
 ④のーナシ(平)
 浜ーしま(静)
 いつー出つ(竹)ーいてつ(鈴・黒)
 出しーナシ(林)
 ⑤小枕こまくら残・三)ーこ枕(宮)ーをまくら
 (群・松・九・万・学・竹・静・伏・内・扶・鷹乙・
 広乙・岡・天)
 ⑦くるしければー心くるしければ(鈴)
 打ーナシ(三)
 ⑧のーなる(鈴)
 なからーたるに(池)
 つくーつけつ(幽・残・群・松・九・万・学・竹・
 古・静・慶・内・鈴・扶・宮・鷹甲・鷹乙・広乙・
 三・黒・岡・天・平)ーつけゝる(池)
 ⑨のーに(幽・残・群・林・松・九・広甲・万・学・竹・
 古・静・池・慶・内・鈴・扶・宮・鷹甲・鷹乙・
 広乙・三・黒・岡・天)
 めはかりをー夢はかり(松・九)
 ⑩つとーつゝ(平)

かしの僧正とかやののほるとていと人しけし

宿かりかねたりつれとさすかに人のなき

やとも有けり廿六日わらしな川とかやわ

たりておきつの浜に打いつなくく出し

跡の月影なとまつ思ひいてらるひるたち入

たる所にあやしきつけの小枕ありいと

くるしければ打ふしたるに硯もみゆれ

は枕のしやうしに臥なからかきつく

なをさりのみるめはかりをかりまくら

むすひおきつと人にかたるな

①程―ほとに(幽・学・池・慶・鈴・宮・鷹甲・黒
―ナシ(伏)
②すく―過る(学・静)
③する―たる(三)
やうに―やうにやうに(鷹乙)
みゆる―みゆ(鈴)
いと―も(松・九)

暮かゝる程清見か関をすく岩こす浪
の白きゝぬを打きするやうにみゆるいとおかし
清見かた年ふる岩にことゝはん

浪のぬれきぬいくかさねきつ

⑤程―ほとも(松・鷹乙)
わたり―あたり(慶)
海―海の(林・広甲・伏)―浦(慶・鈴・鷹甲・
黒)―浦の(平)

程なく暮て其わたりの海のちかき里

注 5行目「の」見セ消テ
⑥とゝまりぬ―とゝまる(鈴)
くゆり―見ゆり(黒)

にとゝまりぬ浦人のしわざにや隣よりく

⑦かゝる―かゝり(九)
煙―けふりの(松・九)
むつかしき―むつしき(内)

ゆりかゝる煙いとむつかしきにほひなれば

⑧宿―やかと(残)

よるの宿なまくさしといひける人の詞

⑨らる―らるゝ(平)
いと―ナシ(鈴)

⑩浪たゝ枕に―波たゝ枕の上に(幽・残・群・万
・竹・古・内・扶・鷹甲・鷹乙・広乙・三)―な
みたたまくらうへにて(静)―涙手枕に
(伏)―波まくらに(平)
立―ナシ(鈴)

もおもひいてらる夜もすから風いとあれて

浪たゝ枕に立さはく

①清見かた―なるみかた(宮)

ならはすよよそに聞こし清見かた

②ねさめは―ねさめに(松)―まぐらは(伏)
注 2行目「まぐら」見セ消チ

あら磯なみのかゝるねさめは
まぐら

③も―ナシ(松・九・扶)
昔―むかし(の・平)
父の―父(宮)

ふしの山をみれば煙もたゝす昔父の朝臣

⑤よみし―詠しゝ(山中)
まては―まて(慶・伏)

にさそはれていかなるみの浦なればたと
よみし比とをつあふみの国までは見しかは

富士のけふりのすゑもあさ夕たしかに

⑦みえし―見し(黒)

みえし物をいつの年よりか絶しと

⑧こたふる―こたふ(黒)
たに―たにも(尊・天)

とへはさたかにこたふる人たになし

⑨はてゝか―はてゝ(静)
ねの―山(鷹乙)

たか方になひきはてゝかふしのねの

⑩すゑの―すゑ路(鷹乙)
見えす―たえし(鈴)

けふりのすゑの見えすなるらん

① までーとて(松・九)

② かーは(伏)

ねをーねの(幽・松・九・慶・伏・内・鈴・宮・鷹
甲・鷹乙・黒・山(広甲)ーねと(岡)

④ はてしーはつる(鷹乙)
をーも(内・鷹乙)

⑤ もーの(黒)
たゝすーたへす(松ーたえす(万・静・黒)

⑥ なみーなよ(黒)
いふ所にー□□の(松・九)□□ノ部分読ミ難
半漢字

やとりてーやとりてか(広甲)ーやとる(鈴)
⑦ 音左右にー音さらに(幽・残・群・万・学・竹・
静・慶・扶・鷹甲・広乙・三・黒・岡)ー左右に
(伏)ーなみの音左右に聞えて(鈴)ー音に
左右に(平)

廿七日：渡りぬるーナシ(池)
⑧ て後ーたる(平)

ふし川ーふし川を(幽・静・慶・鷹甲)

⑨ かそふれーかさふれ(平)
十五瀬をそー八十五瀬をそ(学)ー十五瀬を
(竹・慶・鷹甲)
渡りぬるーわたりぬ(慶)ーわたりける(宮・
平)ーわたる(平)

⑩ ふし河のー田子の浦の(平)

古今の序の詞までおもひ出られて

いつの世のふもとのちりかふしのねを

雪さへたかき山となしけん

朽はてしなからの橋をつくらはや

ふしのけふりもたゝすなりなは

こよひはなみのうへといふ所にやとり

てあれたる音左右にめもあはす廿七日

明はなれて後ふし川わたる朝河いと

さむしかそふれは十五瀬をそ渡りぬる

さえ佗ぬ雪よりおろすふし河の

①こほるーとふる(池)

②いとーナシ(宮)

うらゝかにてーうららかにて(松)ーうらゝか

(広甲)ーうらゝかにて(宮)

たこのーたゝ此(伏)

③のーナシ(黒)

みてもーみて(竹平)

川風こほる冬のころもて

けふは日いうらゝかにてたこの浦に打い

つあまものいさりするをみても

こゝろからおりたつたこのあま衣

ほさぬうらみと人にかたるな

とそいはまほしき伊豆のこうといふ所

にとゝまるいまた夕日残る程三嶋の明

神へ参るとてよみてたてまつる

あはれとやみしまの神の宮はしら

たゝこゝにしもめぐりにけり

⑥とーも(松・九)
かたるーかこつ(松・九・静)⑧こうー国府(残・三)ー府(鈴)ーこふ(群・慶・
扶・広乙)ーかう(伏・愚)

⑦とゝまるーとまる(松)

程ーほとに(静・宮)
明ーナシ(鷹乙)

⑧よみてーよみ(松)

⑨宮はしらー宮居して(黒)

⑩めぐりー尋ね(鈴)

けりーける(内・天)ーけん(鈴・黒)

① 跡も―あとを(松)

をのつからつたへし跡もあるものを

神はしるらんしきしまのみち

③ こえ―こし(鈴)
かゝる―くらす(平)
を―に(松・九)―は(伏)

たつねきてわかこえかゝるはこねちを

④ しるへ―しる人(鷹甲)
とおおもふ―をそとふ(松・九)

山のかひあるしるへとそおもふ

⑤ こう―こふ(残・群・扶・広乙)―国府(幽・慶・
鷹甲・三)―かう(広甲)―かうといふ所
(黒)

廿八日いつのこうをいてゝはこねちに

⑥ いまた夜―夜いまた(広甲)

かゝるいまた夜ふかゝりければ

玉くしけはこねの山をいそけとも

なをあげかたきよこ雲の空

⑨ あしから山―あしからの山(九・学・静・慶・
宮)

あしから山はみちとをしとてはこねち

⑩ かゝるなり―かゝり(黒)
けり―ナシ(竹)

にかゝるなりけり

①そはたてゝゝそはてゝ(松)

ゆかしさよそなたの雲をそはたてゝ

②ぬるゝつる(松・九)

よそになしぬるあしからの山

③とゝまりゝとまり(黒)

いとさかしき山をくたる人のあしもとゝまり

④とゝとそ(残・群・松・九・扶・広乙・三)

かたしゆさかといふなるからうしてこえ

⑤たれとゝたれはまた(残・群・扶・広乙・三)―
たれは(松・九・学・慶・鈴・宮・黒・平)―ぬ
れは(幽・鷹甲)
にゝは(松)

はてたれとふもとにはや川といふ河あ

いふゝナシ(伏)

⑥はやしゝいとはやし(松・九)
なかるゝゝなかる(扶)

りまことにはやし木のおほくなかるゝ

⑦のゝか(鷹甲)
浦へゝ浦人の(鈴)

をいかにととへはあまのもしほ木を浦へ

⑧也ゝナシ(学・鈴・宮・黒)

いたさんとてなかず也といふ

⑨ゆ坂ゝゆきか(古)
こえゝこし(万・竹・古・扶・岡)

あつまちのゆ坂をこえて見たせは

しほ木なかるゝはや川の水